

聖書 使徒言行録2章37節～42節

2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのですか」と言った。38 するとペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてすべての人にも、つまり、私たちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人程が仲間に加わった。42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

説教 『邪悪なこの時代から救われなさい』

- ◆只今、司会者によって朗読されました聖書の箇所は、初代キリスト教会の最初の説教の一部であります。説教しておりますのはイエス様の12弟子の筆頭格のペテロであります。このペテロの説教、イエス・キリストについての証しですが、今日の始めの所に「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、『兄弟たち、私たちはどうしたらよいのですか』とあった」とあります。「大いに心を打たれた」という訳語も決して悪くないのですが、ペテロの説教、キリスト証言が人々の心に突き刺さったのです。そして人々は、ペトロとほかの使徒たちに、「『兄弟たち、私たちはどうしたらよいのですか』とあった。するとペトロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます』と。そして、41節以下にこうあります。「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」と。この日、五旬節の祭りのためにエルサレムに集まったユダヤ人・ユダヤ教徒、三千人もが、洗礼を受けて、クリ

スチャンになったというのです。これは驚くべき事件であります。わたしがブラジルのプロテスタントの教会で礼拝を守り、その日の礼拝で洗礼を受けた兄弟姉妹は386人でしたが、「三千人」というのは、驚くべき数です。しかも、彼らユダヤ教徒が「洗礼」を受けたのです。当時、ユダヤ教徒が「洗礼」を受けることはありませんでした。「洗礼」は、異邦人がユダヤ教に改宗する時に受けたものです。その「洗礼」をユダヤ人が、ユダヤ教徒が受けたのです。いかに彼らが衝撃を受けたかが伺えるのです。

◆「五旬祭」は収穫感謝祭の意味と、出エジプトの後、モーセを通して与えられた「十戒」授与を記念する祭の意味がありました。そして、先日来繰り返し申して来ましたが、「祭」を守るということは、その本来の由来を想起し、今一度本来の精神に立ち返るとというのが「祭」を守る意味です。その「五旬祭」のために、都エルサレムに集まったユダヤ人、都に上って来たユダヤ教徒、三千人」もが、「改宗」の意味を持つ「洗礼」を受けたのです。これは神様の御業です。キリスト教の成立は、奇跡なのです。今、私たちは、キリスト者になる時、「洗礼」を受けるのですが、「洗礼」は、イエス・キリストの十字架の死と死からの復活の命に与る儀式です。私たちの人生において、「洗礼」以上の事件はありません。主イエス様はあのマルタとマリヤ姉妹のマルタに、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」と言われました。私たち、キリスト者は「洗礼」によって、「死んでも生きる命」、「決して死ぬことはない命」に生かされているのです。この命を私達から奪う事ができるものは、この世に何もありません。それこそ「キリスト・イエスにおける神の愛から私達を引き離しえるものは、この宇宙に何も無いのです。ひと度、キリストとの関係を否認したペテロが今、都エルサレムで、生ける神の独り子、イエス・キリストを、「神の子・キリスト・救い主」と証しする勇氣は、罪赦されて、死から復活した者だけが持ち得る勇氣です。

◆そのペテロが、人々に『邪悪なこの時代から救われなさい』と言う時、「邪悪なこの時代」の中心に彼自身がいる事を、ペテロは片時も忘れることはありませんでした。しかし、その邪悪さと、その結果としての地獄からペテロは救われ、解放されたのです。主イエス・キリストの身代わりの死と、復活・顕現により、聖霊の注ぎを受けて、ペテロは再

生、復活したのです。この実体験をもつての証言が、説教であり、私たち、キリスト者の伝道です。ペテロはここで、「邪悪なこの時代から救われなさい」と人々に勧めています。邪悪なこの世界。邪悪なこの日本。この私達の祖国、日本に、何か世界に誇るべきものがあるでしょうか。恥に恥を重ね、今や、世界の笑いものに墮してしまっています。

◆しかしその日本に「救世主」が現われました。ここ数日、報じられている「結愛ちゃん」のことです。5歳のユアちゃんが、親から虐待を受けて、この3月に衰弱死した事件が繰り返され報じられています。そして、たった5歳の幼児が、大学ノートに、ひらがなで、親への必死の詫びと生き直す決意を綴ったものがあります。何ともいじらしい限りです。

「ママ もうママとパパにいわれなくても しっかりと じぶんから もっともっと きょうよりかあしたは できるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいします ほんとうにもう おなじことはしません ゆるして きのうまで ぜんぜん できてなかったこと これまで まいにち やってきたことを なおします これまで どんだけ あほみたいに あそんだか あそぶって あほみただから やめるから もうぜったい ぜったい やらないからね ぜったい やくそくします」

◆これほど切実な反省文と決意表明があるでしょうか。大人は馬鹿です。親も馬鹿です。結愛ちゃんに比べたら、日本の全世代が馬鹿です。これは、5歳の幼児が、生きるか死ぬかの試練の淵で 必死につづった懇願、嘆願、懺悔の言葉です。自分でセットした目覚ましで毎朝早朝4時に起き、まず体重測定をし、それからひらがなの書き取り練習をするよう命じられていた。部屋には室内灯もなく、冬に暖房を切られることもあった。泣き止まない時にはベランダに放り出され、足には重度の凍傷のような傷跡も確認されたと言います。そんな状況で、全ての責任を自分に引き受けての、懇願、嘆願、懺悔の言葉です。この結愛ちゃん言葉は、詩編の7つの悔い改めの詩、そして今日のペトロの説教、そしてルターの『95か条の提題』などと比べても遜色がないと云えば言い過ぎでしょうか。我々は悔い改めて、出直さないといけない。このまま空しく日々を送るようであってはいけないと思います。

◆今日の日曜学校で、子供達と一緒に、ルカによる福音書23章39節～43節を読みました。あの十字架に架けられた犯罪人の嘆願に対し、イエス様が「あなたは今日、わたし

と一緒に樂園にいる」と言われた箇所です。そして結愛(ユア)ちゃんの文章を、結愛(ユア)ちゃん同い年の愛衣(メイ)ちゃんに読んでもらいました。そして今日は、愛衣(メイ)ちゃんが、献金を集め、献金のお祈りもしてくれました。結愛ちゃんが、息を引き取る時、主・イエス様が、ユアちゃんを抱きかかえ、「ユアちゃん、あなたは今日わたしと一緒にパラダイスに居るんだからね！」と、優しく言って下さったにちがいありません。

◆この結愛ちゃんの死のニュースは、日本の政治の腐敗ぶりが世界中に恥をさらしているように、世界を駆け巡り、日本の闇・恥部をさらすと共に、光を放っているのではないのでしょうか。そして、この5歳の幼女の文書は、日本の知性を証ししたと言えるのではないのでしょうか。結愛ちゃんの死は、わたしたちに代わっての死です。わたしたちの懺悔の言葉としなければならないと思います。ペテロは、5旬節に都に集まったユダヤ人・ユダヤ教徒に、「悔い改めなさい。」「邪悪なこの時代から救われなさい。」と説きました。これは他人事ではありません。私たちへの言葉です。私たちは、出直さねばならないのです。今日の司会者、久保淵長老は開会のお祈りでこのようなお祈りになりました。「どうか説教者に御霊を注いでください。また、御言葉を聞く私たちに幼子のような心で御言葉を聞かせて下さい」と。イエス様は言われました。「そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はっきり言うておく。心を入れ替えて幼子のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」と(マタイによる福音書18章2節)。今後、この結愛ちゃんの言葉を、我が懺悔の歌として、生きて行きましょう。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたは御独り子イエス様を私たちに賜り、イエス様は、わたしたちの身代わりとなって、十字架に命を捧げて下さいました。そのお陰でわたしたちは今ある事を許されておりますけれども、日々を過ごす中で、あなたの限りない御愛、御恵みを当たり前のように思って、愚かな空しい歩みをなしていることを懺悔いたします。どうか、今一度、霊的に、洗礼を受けなおして、イエス様の十字架の死に与り、復活の命に与る、わたしたち一人一人とならしめてください。どうか、この愚かな者を憐れんでください。どうか、結愛ちゃんの魂に、平安を与えてください。この祈り、イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。